

災害への備えは万全ですか？

被災後にも会社を存続させるために事業継続計画の策定は重要です

財団法人 大阪科学技術センター
ATAC 会員 加瀬 一彦

先の中越沖地震では株式会社リケンが生産ラインが被災したために生産不能となり、製品の納入先である自動車メーカーのラインまでも停止させたのは記憶に新しいところです。リケンはオンリーワン企業であったため、ユーザが復旧の支援を行い短期間での復旧を成し遂げました。では、あなたの会社が被災したときはどうでしょうか。手を差し伸べてもらえますか、製品の供給再開を待ってもらえますか、供給先を変更されることはありませんか。供給先を変更されれば従業員も路頭に迷うことになってしまいます。ころばぬ先の杖、事業継続計画（Business Continuity Plan：以下BCPと略す）を作っておくではありませんか。

「BCPって何？」と仰る方も少なくないでしょう。ATACでは本年7月に財団法人大阪科学技術センターに関する企業を対象に、事業継続（BC）に関するアンケート調査を実施しました。結果はATACのWeb Site(<http://www.atac.ne.jp/>)のトップページの上部から、アンケート結果ページにアクセスできますのでご覧下さい。そのうち「事業継続計画あるいは事業継続管理という言葉聞いたことがありますか？」という設問の回答を図に示します。聞いたことがないという回答が30.6%、聞いたことはあるが意味は良くわからないという回答が32.9%を占めました。実に60%以上の方が良くわからないと回答されています。今の時点ではご存じないのはごく普通のことだと言えます。

ではBCPとはどのようなものなのでしょうか。企業が災害や事故で被害を被っても重要業務がなるべく中断しないように、中断しても短期間で再開できるように、バックアップのシステムやオフィスの確保、要員の確保、迅速な安否確認などの手順/方法を事前に定めておくものです。策定に当たっての参考資料としては内閣府が作成したガイドライン(<http://www.bousai.go.jp/MinkanToShijyou/guideline01.pdf>)や中小企業庁が作成した運

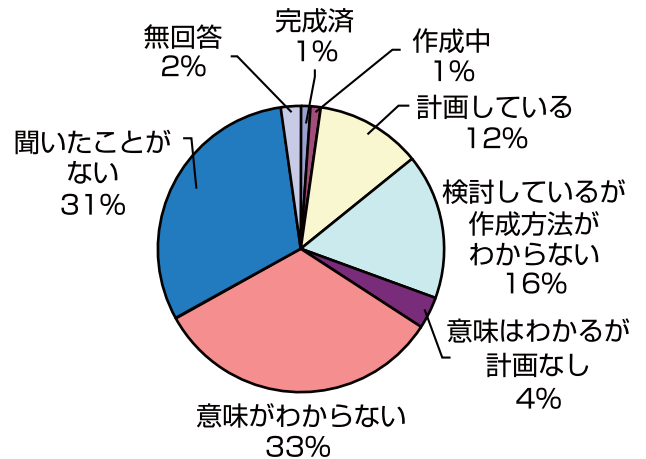


図 事業継続アンケート結果

用指針(<http://www.chusho.meti.go.jp/bcp/>)があります。しかし難解なところがあり読んだだけで策定できる会社は多くないと思われます。

またBCPを策定すると、被災後の迅速な事業再開が期待されるほか被災時の被害を小さくする効果が期待されます。例えば避難場所が確保されて避難通路も決定されていたとしましょう。被災時に避難通路をふさいでしまう障害物が置かれていませんか。せっかくの避難通路も通れてこそその避難通路であって、障害物にふさがれてしまっただけでは何の意味もありません。

阪神大震災があったから、福岡県西方沖地震があったから、もうこの地区は大丈夫。本当でしょうか。新潟県中越地震があったらしばらくは大丈夫と思っていた地域に3年も経たずに新潟県中越沖地震が発生しました。油断大敵です。避難通路の安全を確保するための5Sの指導や、重要業務を決定するときに必要な個別原価計算の指導はこれまでもATACの中心的な指導項目です。幅広い目を持ったATACがBCP策定のお手伝いをさせていただきます。すでに支援を始めた会社もあります。お気軽にメールでatac@ostec.or.jpまでご相談下さい。

経営改革を進める日本スピンドル製造株式会社の 工場見学と社長講話 ~第9回社長懇話会記録~

◆社長懇話会

ATACの行事として平成15年以来年に2回のペースで開催してきていますが、今回(平成19年7月20日)で9回目を数え、すっかり定着した感があります。

今回は企業経営者24名とATACからも10数名参加し、日本スピンドル製造(株)にお願いして工場見学をさせていただきました。当社は2年前のJR福知山線事故の際に齊藤十内社長の指揮の下にいち早く全社一丸となって救援活動を行なって世間の賞賛を浴びたことは記憶に新しいところと思います。齊藤社長にはこのときの経験談をATAC15周年記念講演会(平成16年10月)で話していただき、感銘を受けましたが、今回は同社の経営改革について講演していただきました。

◆工場見学

最初に工場概況の説明を受けました。大正7年に紡績機械の部品であるスピンドルを国産化して社名としたが、現在は、産業機械、大型集塵装置、空調システム、教育・福祉の4部門からなり、各種のテストプラントやデモプラントを擁している。敷地53,000m²、従業員350名、年商185億円(連結、平成19年3月期)の規模であるとの説明の後、工場見学に移りました。

最初に工場に隣接したJR事故現場を訪れて全員で哀悼の意を捧げました。

建材工場はこの工場での唯一の量産部門で、薄鋼板を成形し、間仕切りや引き戸用の扉やレールに組み立てていました。

空調工場では、クリーンルーム内の精密温調の試験室(サーマルキューブ)を見ました。クリーン度100、温度±0.1℃で、用途は液晶、半導体の測長・検査用です。

産業機械の大型工場では、回転しながら塑性加工を行うスピニング加工機やフローフォーミングマシンを組み立て中でした。大物は自動車アルミホイールの加工、小物では自動車触媒コンバーターの両端絞り加工、食器・照明器具用のアルミ板成形加工などに使われます。ロールフォーミング・センターではスピニング加工機の大小のデモプラントで自動車のドラムクラッチや触媒コンバーターの絞り加工を見学しました。

環境関係では、高さ25mのパルス式集塵装置のデモプラントや粉体輸送機のテストを見学しました。これらは現在製鉄所の集塵に活躍中とのことでした。



最後に昨年5月に開講した技能塾でやすり掛けの実習を見学しました。選ばれた社員8名が、期間2年で座学6教科と実技(旋盤、きさげ、溶接など)を習得しており、来年の国家技能検定を目指しています。また、昨年10月には中級クラスを開講し、振動計、送風機などより高度なものに挑戦しています。

工場は隅々まで整理整頓など5Sが行き届いていて、上記救済活動に必要な道具がすぐ持ち出せたことが実感できました。

◆齊藤社長の講話



ホテルニューアルカイクで齊藤社長が取り組んでこられた経営改革に関する講演を聴きました。

2004年の社長就任以来、赤字脱却の3ヵ年計画を執行し、2006年3月期に黒字化と11年振りの復配を果たしたこと、本年3月期決算は不採算部門の整理と重点分野への移行で、売上げは減ったが利益率が向上したこと、また2社を吸収合併して業容を拡大中であることなど近況のほか、2010年を目標にした新経営ビジョンを打ち出し、3ヶ条からなる経営理念と5項目から成る行動基準を策定し、自らの経営課題として部下に率先して取り組んでいるとの説明がありました。

また、今後は人材の補強に力を入れる、経営はいい人材を集めることに尽きる、その一環として技能塾を始めた、また、開発・設備投資にも注力し、量産と違う付加価値の高い仕事に注力しつつあり、今は過渡期などとの説明がありました。

これからのトップの役割として、検査と診断、手術、治療、モチベーション、教育、事業強化・強い営業力、事業構造転換・シナジー効果を挙げられました。

以上の講話に対して、参加者から、教育、人事評価制度、日本スピンドルの歴史と社風、注力製品など活発な質疑応答がなされました。

◆懇親会

恒例の懇親会は日本スピンドル製造から10名近い幹部も加わり、盛会でした。

参加者から日本スピンドル製造への相談や、参加者同士の懇談など、参加企業の今後の活動に寄与しそうな話題も多数出た模様で、多くの参加者から参考になったと喜ばれました。主催者側としても有意義な一日であったことを喜んでいきます。

(池田・吉田記)

この頁を読者の皆様とATACとの相互交流に使っています。

ATAC
ひと言

小集団活動で企業体質強化を

2年前、アルゼンチンの中小企業活性化のために、日本の生産管理の考え方・手法を指導する機会がありました。

自動車や農業機械関連の企業が多いラファエラとロサリオという2つの都市で6企業をモデル工場に選定し、5回にわたり延べ8ヶ月間現地に滞在して、企業の従業員と共に改善活動に取り組んできました。

経営者との意見交換で、経営者の多くが「自分の考えが現場に十分伝わらない」との悩みを持っていることが伺え、熱処理が必要な部品が熱処理しないまま出荷され、大きなクレームになったケースなど、仕事に対する作業者の無関心に起因するトラブルが多いことも工場の実態調査で分かりました。

そこで、「5S活動」を基本に据え、併せて企業の実態に合った「クレーム撲滅」、「不良率の半減」、「生産量確保」などのテーマを決めて、小集団活動を行うことで全従業員のモラル・アップを図ることにしました。

「アルゼンチン人と日本人とではメンタリティーが違う」と最初は不安視していた経営者も、徐々に理解してくれ、率先してグループリーダーを指導するようになりました。「5Sパトロール隊が社長室にあるものにまで赤札を付けて

いった」と苦笑しながら話す社長や、筆者の腕を取って自分たちが改善した現場まで連れて行き、スペイン語でまくし立てる作業員など、当初の社長の不安をよそに、予想以上の成果を上げるまでになりました。

筆者が帰国した後も、「不良率半減」を達成させたお知らせきたアルミニウム製シリンダヘッドのメーカー、1年間「クレーム・ゼロ」を達成し納入先から「パートナー」の資格を得たと伝えてきた部品メーカーなど、小集団活動が定着しモデル工場としての役割を果たしているようで、日本の生産管理が地球の反対側で根付いていると思うと感慨深いものがあります。

企業体質の強化のために、企業のトップが中心となって大きな改革を行うことも大切ですが、全従業員で取り組む小集団活動を通しての改善も大きな役割を果たします。あなたの会社でも、小集団活動をもう一度見直してみませんか。ATACがお手伝いいたします。（深瀬記）



企業

PR
コラム

「よそにはできないこと」をやれ！

株式会社 工進

代表取締役社長 小原 勉

工進は、アグリ用、土木用、家庭用、工業用、油業用、船舶用などの分野において各種小型ポンプを製造し、多くのNO.1シェアの商品を持つ国際的知名度の高いメーカーです。

来年創業60周年を迎えるにあたり、「私達は今までのやり方を全て見直し、改革改善に挑戦します」というスローガンの下で、工進で働いている全員が仕事のやり方を見直しています。知恵を出し合い、より少ない人数で、より少ない時間で仕事をするため能率を上げる努力をし、残業ゼロの取り組みをしております。

私自身は社長就任時より、ライバルよりもより多くのユニークな特徴を持った顧客優先型の企業を作り上げよ



うと努力して来ました。そのため、他社(同業)がやっていないこと、他社ができないことにもいろいろと挑戦をして来たつもりです。振り返って59年間存続出来た理由の一つは、他社に出来ないことをやって来た積み重ねが大きいような気がします。

「顧客第一」と言葉で言うのは簡単ですが、それぞれの現場で実践できているか否かがその企業の将来を決めることになるでしょう。私自身どんな企業が目標ですかと尋ねられれば、全社員、全部署がどうすれば更にお客様に喜んで頂けるか、そんな努力をし続ける企業を目指しています。これからもより一層社員と共に頑張りたいと願っています。



株式会社 工進

住所：〒617-8511 京都府長岡京市神足上八ノ坪12番地
TEL：075-954-6111
FAX：075-955-1927
URL：<http://www.koshin-ltd.jp>

ATACの内容

本会は長年の経験により独自の技術とノウハウを有する技術者・管理者を結集し、お互いの知恵を出しあい、学習しあい、ネットワークを活用するとともに、中堅・中小企業が抱える国際化、技術開発、人材育成等の諸問題の解決を支援することにより中堅・中小企業の発展に資することを目的とする。
～ATAC規約第2条より～

1. コンサルティング

中堅・中小企業の抱えるさまざまなテーマについて600件のコンサルティング業務に携わってきました。

2. セミナー開催・講師派遣

従業員教育、経営管理、ISO関連、品質管理などのセミナーを企画・実施し好評を博しています。また、講演会・研修会などへの講師派遣も行っています。

3. 書籍刊行

- ・ATACの経営便利帳
- ・現場の課題解決はこうする(中堅・中小企業の業務改善事例)
- ・中堅・中小企業へのATAC提言集
 - ①新商品開発のヒント ②ISO9000 認証取得の手引き
 - ③ISO14001 認証取得の手引き ④中小企業のためのIT
 - ⑤材料選択の手引き ⑥設計を考える
- ・目からウロコのアドバイス ～中小企業経営者への提言～

4. NASCA(産学連携のお手伝い)

企業の技術ニーズをお預かりして、最適な技術シーズを持つ大学や研究機関などを探し、ご紹介する業務です。

5. 公的支援情報送信サービス

ご希望の企業に、国や府県等による研究開発補助金等の公的支援募集情報をタイムリーに分かりやすくe-mailやFAXで無料配信する業務です。

新たに公的支援情報送信サービスをご希望の企業の方は下記の申込書にご記入の上、**FAX (06-6443-5319)**でお申し込みください。

| | |
|--|-----|
| 企業名 | 担当者 |
| 所在地 | |
| TEL | FAX |
| E-mail | |
| <input type="checkbox"/> FAX <input type="checkbox"/> E-mail に送信希望いたします。 | |



「ケンブリッジの卵」

下村 裕 著 慶應義塾大学出版会(2007年7月) 定価(本体2,000円+税)

本書は、その表紙にも書かれているように、「回転するゆで卵が何故立ち上がりジャンプするのか」という物理学でも解決していなかった課題を巡る興味あふれる物語です。

ゆで卵を水平に置いて速く回転させると、やがて立ち上がり回転することをご存知の方も多いでしょう。これが生卵とゆで卵の見分け方だとATACのさるメンバーも言っていました。

ところがこんな古くから知られた一見平凡な事もきちんと物理学的に証明されていたようです。

本書の著者が、物理学の権威と伝統で知られた英国ケンブリッジ大学に留学し、そこで偶然に取り組んで、また、帰国後、慶応大学での研究室で継続して取り組んだ解析で、悪戦苦闘の末、この問題を解決させた物語です。

卵が回転しながら立ち上がる、さらに驚くことにジャンプするというミステリーをとき明かす興味溢れる物語の展開は、まさに読者を惹きつけます。

しかし、本書にはそのこと自体もさることながら、随所に散りばめられた留学中のケンブリッジ大学周辺の描写や、ノーベル賞をとられた著名な学者たちとの国際会議でのやりとりなどに新鮮な描写が沢山盛り込まれています。その著名な学者たちとの晩餐会での料理にいたるまで、読者を惹き込んでゆく楽しい魅力を持っています。

また、英国での子供の教育、自然に親しむ感性の大事さなど、著者が感じる科学観や物理学と社会との接点についての思いも語られ、色々とも共鳴するところが多く出てきます。

物理学は複雑な数式によって展開される難解な学問と思われがちですが、それはあくまでも研究の手段や法則の表現であって、物理学の本旨は“不思議”の謎解きです。我々は歳をとると素朴な疑問をもつ心を失いがちですが、歳をとっても“不思議”に対する感性を大切にしたいと、著者の主張に身を洗われる気持ちで読みました。

一人でも多くの人に読んで欲しいと願った一冊です。(梶原記)



ATACニュースに関するご意見、および今後のご要望をどしどしATAC事務局までご連絡ください。

ATAC事務局

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4
(財)大阪科学技術センター 技術・情報振興部
TEL06-6443-5323 FAX06-6443-5319
e-mail : atac@ostec.or.jp

URL <http://www.atac.ne.jp>